

2 救急活動時間延伸の要因分析

2 救急活動時間延伸の要因分析

検討項目

- ・ 救急現場実態調査から得られた要因の分析
- ・ 救急統計の分析と施策の取組状況による効果の検証
- ・ 先進的な取組の把握

○ 第1回救急活動時間延伸に係わる連絡会開催 開催日：10月29日(金)

連絡会開催状況と議事内容

- 開催日時：平成30年10月29日(金)15時00分～17時00分
- 開催場所：都内会議室
- 参加団体：さいたま市消防局 千葉市消防局 東京消防庁 名古屋市消防局
京都市消防局 福岡市消防局 奈良市消防局 福井市消防局
- 議事内容：救急活動時間延伸の要因分析について

<意見交換>

- ・ 救急現場実態調査から得られた要因分析 等

2 救急活動時間延伸の要因分析

検討項目

救急現場実態調査から得られた要因の分析

○救急隊の相互乗り合い調査（H28、H29実施）

➤ 概要

参加消防本部間で相互に職員を派遣し救急車への同乗を行い、救急活動時間の延伸要因と短縮要因の実態を調査

➤ 調査実施団体

- ・さいたま市消防局 ・千葉市消防局 ・東京消防庁
- ・名古屋市消防局 ・京都市消防局 ・福岡市消防局

➤ 調査項目

救急活動を覚知から病院収容までのフェーズで3つに分け、時間短縮のための要因を調査するとともに、救急需要に応じた救急車の柔軟な配置など、時間短縮のための取組を調査

- 1 119入電から現場到着
- 2 現場到着から現場出発
- 3 現場出発から病院収容

活動時間が延伸傾向になると思われる要因

○入電～現場到着

- ・車庫までの導線が長い(事務所や仮眠室など)
- ・指令書がある場合、プリントアウトを待つ必要がある
- ・予告指令システムがない
- ・現場までの経路を通信室で確認、車載AVM表示なし

○現場到着～現場出発

- ・全症例、全ての観察資器材を携行
- ・全てのバイタル測定や詳細観察を現場で実施
- ・現場で傷病者や関係者情報を全て聴取
- ・車内収容後に病院選定、応需確認を実施
- ・病院受入確認時の伝達基準の非遵守(医療機関側)

○現場出発～病院収容

- ・到着後の救急隊員による診療申込み
- ・病院ごとの引継様式の記入
- ・医師の診療後の署名
- ・医師が処置中のため引継に時間を要する

活動時間の短縮につながると思われる取組

○入電～現場到着

- ・覚知から出動指令まで目標時間を設定(早期出場指令)
- ・予告指令システム導入
- ・現場での経路をAVMのみで実施
- ・現場到着までの間に情報聴取を実施
- ・傷病者の状態に合わせた携行資器材の選定
- ・一時的に救急出動件数が増加し救急需要が見込まれる地域に救急車の配置転換を実施
- ・通報内容から、緊急度・重症度が高い場合に指令課員による病院選定を実施

○現場到着～現場出発

- ・車内収容前の観察はABCのみ確認
- ・車内収容後に詳細観察を実施
- ・車内収容前に病院選定、応需確認を実施
- ・指令課員による病院選定(緊急度・重症度以外の事案)
- ・病院受入確認時の伝達基準の遵守

○現場出発～病院収容

- ・救急入口に医師、看護師が待機
- ・病院職員が受付を実施
- ・病院独自の引継様式がない
- ・処置、介助等を行うことなく引揚げ
- ・重症外傷を応需する病院に、バックボードなどの予備の資器材を予備の資器材を配置

2 救急活動時間延伸の要因分析

検討項目

救急現場実態調査から得られた要因の分析

○相互乗り合い調査で得られた活動時間短縮と思われる取組項目をリスト化し、情報提供

救急活動時間の短縮につながると思われる取組項目(案)

入電～出動
○指令
・覚知から出動指令まで目標時間を設定(早期出場指令)
・予告指令システムによる出動指令
・入電時、CPAの場合は指令員が直近の医療機関を選定
・早期PA連携の指令(救急隊と同時指令)
○早期出動
・目標物を確認し早期出動し、詳細の災害地点は走行中に無線で聴取
・事務所・仮眠室から車両までの動線の短縮
出動～現場到着
○早期現場到着
・現場への経路をAVMで確認
・管内の地理・交通状況の把握
○プレアライバルコール
・傷病者の状態に合わせた携行資機材の選定
・重症感や搬送困難があれば、PA連携を要請
・建物への進入口の確認や誘導員の配置
現場到着～接触
○迅速な傷病者への接触
・救急隊長が先行して傷病者と接触、後着の隊員がストレッチャー等の資器材を携行
・携行資器材のコンパクト化

接触～現場出発
○観察
・現場では傷病者の状態に合わせた最低限の観察のみを実施
○迅速な病院選定
・ICTを活用した病院選定
・救急車内へ搬送中に、病院選定を実施し応需確認
○指令課との連携
・緊急度・重症度が高い場合、指令課員による病院選定 ※CPAや高エネルギー事故事案等
・受入先の病院が選定困難の場合、指令課で病院選定
現場出発～病院収容
○医療機関との連携
・救急入口に医師、看護師が待機
その他
○配置転換
・一時的に救急出動件数が増加し救急需要が見込まれる地域に救急車の配置転換を実施
○隊員の意識改革
・救急隊長へのヒアリング
・各救急隊の活動時間に関するデータの開示
○高齢者施設との連携
・傷病者情報のカードなどの提供

2 救急活動時間延伸の要因分析

検討項目

先進的な取組の把握

【事例1】救急隊別救急活動時間の把握

○千葉市消防局

- 救急隊別の救急活動時間を把握するため、各フェーズにおける活動時間を算出
 - ・救急隊別、救急隊長別の救急活動に要した時間(「覚知～現着」、「現着～現発」、「現発～病着」、「病院滞在時間」、「引揚～帰署」)を毎月ごとに時間データを算出し、救急隊や救急隊長が所属する消防署へ公表

⇒取組は開始して2ヶ月であり、明確な短縮効果は現れていない状況

【事例2】救急活動時間効率化5ヵ年プロジェクト

○奈良市消防局

- 救急出動件数の増加や消防職員数の減少、基幹病院の移転など、活動時間が延伸する要因が潜在していたため、救急活動時間の効率化を図り、限られた救急車を有効に活用するため、救急隊別の活動時間を公開
 - ・救急活動の効率化がみられた救急隊に、取り組んだ事項を聴取
 - ・救急活動の効率化の取組例を救急隊員間で共有

⇒救急隊別の活動時間を公開から5年経過し、活動時間全体で7分の短縮効果があった。

2 救急活動時間延伸の要因分析

検討項目

先進的な取組の把握

【事例3】救急活動時間効率化への取組

○さいたま市消防局

- プレアライバルコール・コールバックの実施
 - ・出動途上における情報収集を積極的に行い、現場での聴取にかかる時間を短縮させ、現場活動の効率化につなげるためプレアライバルコール・コールバックの実施
- 医療機関への訪問
 - ・救急告示医療機関へ訪問し救急活動時間の現状を説明、「病院交渉時間の短縮」や「病院滞在時間の短縮」について、課題解決に向け協力依頼

⇒平成28年から消防庁主催の「救急活動時間短縮に係わる連絡会」に出席し、プレアライバルコールやコールバックなど、連絡会で得られた効率的な活動項目を実施したところ、救急活動時間は短縮傾向となっている。

2 救急活動時間延伸の要因分析

(5) スケジュール

連絡会開催予定表

